ひだご坊
No.279
2012年10月20日

発行　真宗大谷派 高山教務所
発行者　大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
＊毎月20日発行　50,000部
三市一郡無料配布
印刷　山都印刷株式会社

念じられ照らされて

蝉（せみ）は夏を知らない

古田和弘（ふるたかずひろ）

〈略歴〉
一九三五年生まれ。大谷大学名誉教授。九州大谷短期大学名誉学長。

先般の東日本の大震災によって、原子力発電の大きな事故が発生しました。そのころ、新聞やテレビで、「想定外」という言葉をしばしば見聞きしました。多くの場合、原子力の研究や電力の業務にたずさわっておられる専門家の人びとが、その言葉を頻繁（ひんぱん）に使っておられたのが、ことに印象的でした。

「想定外」というのは、予想していなかったこと、あるいは、予想できなかったことを言うのだろうと思います。つまり、あの津波と、それによる原子力発電の事故が、科学的・専門的・合理的な知識や実績や判断では、予測ができなかったということでしょう。原子力発電を生み出してきた科学が、その原子力が起こす弊害（へいがい）を予測できなかったということになります。

科学は、確かに、人に便利さをもたらし、豊かさを与えてくれています。したがって、私たちは、科学的であることを信頼し、安心しているのです。しかし、そこには、人間の誤解や過信があったのではないでしょうか。「安全神話」が崩壊したといわれるように、科学的・合理的であると判断する、その自分の判断を正しいと信じていたに過ぎないのではないでしょうか。科学的真理も合理性も、結局は、欲望だらけの、間違いだらけの、人間の判断であることを思い知らされたのでした。

仏教には「如実知見（にょじつちけん）」（実の如くに知見せよ）という教えがあります。物事を認識するのに、自分の都合や、自分へのこだわりを交えないで、いま現に起こっている事実を、その事実の通りに受け止めることが大切だと教えているのです。そして、それが誰にもできていないために、人は一喜一憂をくりかえすのだと教えられているのです。

世間では、いつも、悩み悲しみがつきまといます。なぜ、悩み悲しみが生ずるのか、どうすれば、悩み悲しみが解決するのか、それは世間の私たちの眼には見えないのです。欲望にまみれた眼だからです。世間を超えた、出世間の眼、いわば仏さまの眼によらなければならないと教えられています。

有名な譬えがあります。「蝉は夏を知らない」という譬えです。蝉といえば夏、夏といえば蝉というように、蝉と夏は密接な関係にあると私たちは思っています。したがって、蝉は夏のことをよくよく知っていると思っています。

しかしながら、蝉は、夏にしかいませんから、春と秋を知らないのです。春も秋も知らないものが、どうして夏を知ることができるのか、知っているはずはない、というのがこの譬えの趣旨です。つまり、世間しか見ていない者に、どうして世間のことがわかるのかということです。出世間の眼でなければ、世間を知ることができないということです。

科学は、それが合理的であることは想定しますが、そこにどのような問題が隠れているかは想定しないのです。想定できないのです。科学とは質の異なる眼を具えていないからです。

親鸞聖人の御和讃に「難思議を帰命せよ」というお言葉があります。

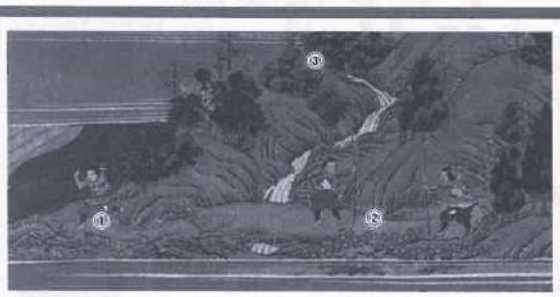
「帰命」というのは、インドのナマスという言葉の訳で、「南無」とも表記されます。「心から敬います」という気持ちを表す言葉です。

「難思議」は、御和讃では阿弥陀仏のことを指しておられるのですが、その言葉の意味は、思議することが困難ということ、思議することができないということです。「思議」は、私たちが心に思い、言葉で語ることです。

「難思議」は、欲にまみれた私たちの思いや言葉では通用しない、つまり想定できない出世間の仏さまの眼のはたらきです。それは、心から敬うほかない、ということです。

科学が発展すればするほど、また、その豊かさや便利さの利益を受ければ受けるほど、私たちはますます、本当に敬うべきものをはっきりさせなければならないのです。

絵解親鸞聖人絵伝26



「弁円済度」
①弁円（38歳）　②弁円の弟子（小川房・吉祥房）
③板敷山

親鸞聖人絵伝下巻第三段「弁円済度」①

常陸国（茨城県）には筑波山・加波山という名だたる修験の山があり、多くの修験者は雨乞いや病気平癒・招福などの御利益のために、加持祈祷を行っていました。

しかし、親鸞聖人が、その常陸の国で専修念仏の教えを勧めるようになると、本願念仏の教えを頂く人びとが増えていきました。人々は加持祈祷を望まなくなるようになり、信者をとられたと感じた修験者たちは、親鸞聖人に恨みを抱くようになりました。

その一人である天台修験者播磨公弁円は、聖人を亡きものにしようとしていました。聖人が稲田の草庵（笠間市）から板敷山（石岡市）を往還して各地へ布教に出かけるのを知り、配下の者とともに山中で殺害しようと待ち伏せをしました。聖人がいつも通る山路で待っていると、その日は別の山路を通って行きました。不思議なことに次の日も、また次の日も、聖人は弁円たちが待ち構えている山路を通ることなく、失敗に終わりました。そこで弁円は、直接稲田の草庵に乗り込むことにしました。

任職の言葉

分陀利華（ふんだりけ）

朝日高根組　大徳寺（だいとくじ）
小長谷　幸男（こはせゆきお）

極楽浄土の池には、蓮華の花が咲き乱れ、それぞれ光り輝いているとされ、『仏説阿弥陀経（ぶっせつあみだきょう）』には、

池の中の蓮華、大きさ車輪のごとし。青き色には青き光、黄なる色には黄なる光、赤き色には赤き光、白き色には白き光あり。微妙香潔なり

と説かれています。

泥土に根をはり、泥水に花開く蓮華は、さとりを象徴するものとされ、念仏者に喩えられています。

何況憶念　若念佛者
當知此人　是人中分陀利華

（いかにいわんや憶念せんをや。もし念仏する者は、当に知るべし、この人はこれ人中の分陀利華なり。）

これは、野麦峠の頂きの一角に立つ石碑に刻まれている『仏説観無量寿経』の一節で、天保一一（一八四〇）年庚子八月飛騨高山大野重助とあります。

分陀利華とは白い蓮華の花を指します。仏を深く心に念じ、つねに想い続ける、このように念仏する人こそ、泥中に花開く清浄の白蓮華のごとく尊い人であると知るべきであるという意味です。

仏恩を報じ信に生きるものを人中の人、白蓮華といいますが、しかしながら、蓮華の育つ泥こそ私の身そのものに他なりません。邪見憍慢のわたしにとって、「まさに知るべし」とは、花開けと深く念ぜられている難中の難というべき我が身のことなのでしょう。

☎テレホン法話（0577（34）2313）○10月21日～31日…宮川徳義氏【聖圓寺】○11月1日～10日…佐藤義晃氏【了德寺】○11月11日～20日…松本大輔氏【教務所】
◇宗教トラブルFAX相談窓口（0577-32-0763）

ひだご坊 報恩講

報恩講は、親鸞聖人の御命日に改めて聖人のみ教えを訪ねていく法要です。ぜひお参りください。

11月1日（木）	昼 1時	初逮夜（しょたいや） 音楽法要 講師 石川（いしかわ） 正生（せいしょう） 氏
	夜 7時	ご坊報恩講の夕べ 青空と大地と心の風と奏でよう！
2日（金）晨朝7時	朝 10時	日中（にっちゅう） 全飛門徒物故者追弔会
	昼 1時	大逮夜（おおたいや）
	夜 6時	御伝鈔（ごでんしょう） 第31回 別院真宗公開講座 講師 木越（きごし） 康（やすし） 氏
3日（土）晨朝7時	朝 10時	帰敬式（9時） 報徳会 再建永代経
	昼 1時	満日中（まんにっちゅう）

ご坊報恩講の夕べ
東日本大震災を心に刻む集会 Part4　入場無料
※救援金のご協力をお願いいたします。

「青空と大地と心の風と奏でよう！」

～モンゴル音楽と愉快なミュージシャン達～

11月1日（木）　夜 6：30 開場　7：00 開演

会場　高山別院 庫裡ホール

第一部
福島児童一時保養支援活動報告

第二部
被災地支援チャリティーコンサート
●演奏者●
岡林立哉（おかばやしたつや）・青空楽団てるてる家族

岡林立哉…日本では数少ないモンゴル伝統楽器馬頭琴とホーミーの演奏者。

参拝送迎バス

11月2日・3日には別院報恩講参拝のためのバスを運行します。乗車場所・時間等のお問い合わせ、お申し込みはお手次のお寺へお願いします。

【2日】
丹生川町、久々野町、一之宮町、下呂市、白川村

【3日】
山田町、下林町、清見町、荘川町、朝日町、高根町、飛騨市

荘川少年少女合唱団

日時　11月3日（土）午後1時から
出演　荘川組
　　少年少女仏教讃歌合唱団
曲目　「なんまんだぶつの子守歌」
　　「みほとけは」
　　「しあわせ運べるように」等

子ども報恩講

お気軽にご参加ください

日時　11月4日（日）
午前10時～午後3時頃
※昼食はこちらで用意いたします。

内　容　おつとめ、作品展表彰式、影絵、おはなし、遊びの広場 など
参加費　無料
※詳細は高山教務所までお問い合わせください。℡0577－32－0776

子ども作品展

書道や絵画の作品を展示します。
期間　10月25日（木）～11月4日（日）
会場　高山別院 本堂

お斎

期日　11月2日（金）・3日（土）昼
会場　高山別院 庫裡ホール
お斎料　1,500円

玉翠会書道展

日時　10月27日（土）午前9時～午後5時
　　10月28日（日）午前9時～午後4時
会場　高山別院 庫裡ホール

フリーマーケット

期日　11月1日（木）～3日（土）
会場　高山別院 境内

抹茶接待（無料）

日時　11月1日（木）
　　午前11時～午後3時
会場　高山別院 御殿
主催　二木社中

御坊名物大根汁（無料）

期日　11月1日（木）～3日（土）
会場　高山別院 境内

大谷婦人会高山支部報恩講

日時　11月11日（日）午後1時から
会場　高山別院 本堂
講師　大町慶華輪番
※午後12時よりお斎があります。（1,000円）

ご回壇案内

5日（月）不遠寺［総和町］
11日（日）浄願寺［丹生川町］
13日（火）了泉寺［鉄砲町］
※時間などの詳細は会所寺院にお尋ねください。

わがまち再発見

現在放映中!!

「浄土真宗の歴史を訪ねて～嘉念坊善俊上人～」

飛騨高山ケーブルテレビ Hit net TV！において飛騨御坊の開基・嘉念坊善俊上人について放映されています。

放映日 毎日3回
全2話
10月第1話　11月第2話
※時間帯等につきましては、下記番号にお問い合わせください。
飛騨高山ケーブルネットワーク株式会社
TEL：0800－200－8688

井上 円先生の「恵信尼消息」から見える親鸞像」は今月はお休みします。

定例法座・法話（午後1時から）
○10月27日（土）…大町慶華輪番　○10月28日（日）…藤守顕章氏［憶念寺］　○11月11日（日）…大町慶華輪番　○11月13日（火）…野崎尚斉氏［西正寺］